

シリーズ：患者中心のメディカルホームとは何か？
～ヘルスケア供給システム再構築への示唆～

患者中心のメディカルホーム (Patient-Centered Medical Home : PCMH) の概念紹介にあたって

日本内科学会専門医部会地域医療教育プログラムワーキンググループ

[日内会誌 104 : 139~140, 2015]

日本内科学会専門医部会地域医療教育プログラムワーキンググループ

宮田 靖志 (国立病院機構名古屋医療センター卒後教育研修センターセンター長)

向原 圭 (国立病院機構長崎医療センター総合診療科医長)

川島 篤志 (市立福知山市民病院総合内科医長)

井口清太郎 (新潟大学大学院医歯学総合研究科総合地域医療学講座教授)

吉嶺 文俊 (新潟大学大学院医歯学総合研究科総合地域医療学講座准教授)

小幡 篤 (総合病院みちのく総合診療医学センターセンター長)

雨森 正記 (医療法人社団弓削メディカルクリニック院長)

藤沼 康樹 (日本医療福祉生活協同組合連合会家庭医療学開発センターセンター長)

高林克日己 (千葉大学医学部企画情報部教授)

大生 定義 (立教大学社会学部教授)

下瀬川 徹 (東北大学医学部消化器内科教授)

医療専門職集団にはその責務として、地域＝コミュニティのニーズに応え、コミュニティ全体の健康を向上させる説明責任がある。実際、多くの内科医がコミュニティにおいて住民の健康課題に取り組み、プライマリ・ケアを提供してその責務を果たしてきた。

しかしながら、コミュニティの健康課題に内科医としてどのように取り組むべきか、そのた

めの明示的・系統的な教育プログラムはこれまで提示されたことはなく、そのため、ややもすると内科医によるコミュニティへの貢献は不十分であった可能性がある。そこで、日本内科学会専門医部会に設けられた「地域医療教育プログラムワーキンググループ」では、コミュニティに貢献するために全ての内科医が持つべき能力を涵養するための教育プログラムについて検討

Patient-Centered Medical Home : Suggestions for the Health Care Delivery System Reform in Japan : Introduction on the concept of Patient-Centered Medical Home (PCMH).
Working Group on Educational Program in Community Medicine, Fellows' Group of the Japanese Society of Internal Medicine, Japan.

することとなった。

ここでは、本ワーキンググループの作業の1つとして、現在、米国で展開されつつある患者中心のメディカルホーム（Patient-Centered Medical Home：PCMH）の概念について、4つの一連の報告書を翻訳し、それを5回（誌面の都合上、4つ目の報告書は2分割する）にわたって紹介する。

患者の高齢化、急性疾患から慢性疾患への疾病構造の変化、心理社会的課題も含めた複雑な健康問題の増加、医療の高度化と専門分化、医療資源の不足などにより、コミュニティにおけるヘルスケア供給体制は、患者・住民にとって必ずしも効果的・効率的とはいえなくなってき

ている。これらの課題を解消するため、包括的・継続的で、患者・住民にとって安心して安全な医療を提供することを目的としたチーム医療によるヘルスケア提供のモデルがPCMHである。PCMHは、米国内科学会を含む4つの学会によってその共同原則が策定され、現在、その他の多くの学会・組織によっても支持されており、様々なプロジェクトが進行している。PCMHの概念は日本でのコミュニティのヘルスケア供給体制にも十分適応可能であり、その概念を理解することは内科医にとって非常に有用であり、日本でも同様のヘルスケア供給体制の構築がコミュニティに従事する内科医を中心に進められることが期待される。

本号より開始する連載の中で紹介する内容（予定）は以下の通りである。

●第1回目：第104巻1号掲載（今回掲載）

最初に発表されたPCMHの共同原則に関する報告書

●第2回目：第104巻2号掲載予定

PCMHの教育に関する報告書

●第3回目：第104巻4号掲載予定

PCMHの認定/認証に関する報告書

●第4回目：第104巻5号掲載予定

PCMHと専門医療機関との連携に関する報告書の前半部分である本文

●第5回目：第104巻6号掲載予定

PCMHと専門医療機関との連携に関する報告書の後半部分である補遺I・II・III

なお、本内容は内科学会雑誌の掲載とともに、日本内科学会専門医部会のサイトにも掲載されることになるので、そちらもご覧いただければ幸いです。

シリーズ：患者中心のメディカルホームとは何か？
～ヘルスケア供給システム再構築への示唆～

American Academy of Family Physicians (AAFP)
American Academy of Pediatrics (AAP)
American College of Physicians (ACP)
American Osteopathic Association (AOA)
患者中心のメディカルホームの共同原則
2007年3月

監訳 宮田 靖志 (国立病院機構名古屋医療センター卒後教育研修センター/総合内科)¹⁾
向原 圭 (国立病院機構長崎医療センター総合診療科)²⁾

〔日内会誌 104 : 141~143, 2015〕

本シリーズ第1回目は、2007年に初めて発表されたPatient-Centered Medical Home (PCMH) の共同原則を紹介する。

PCMHの源泉は1967年に米国小児科学会が導入したメディカルホームという概念にあり、これに続き、その後、米国家庭医療学会、米国内科学会が相次いで同様の概念を導入した。この3学会に米国整骨医学会が加わり、これら4学会がそれまでの概念を発展させて策定したのがPCMHである。現在、米国内科学会においてはPCMHに関する様々な取り組みが行われている。

PCMHは患者の様々なニーズに対応する医師主導のチーム医療で実践される多職種連携による包括的・協調的ケア供給モデルである。これは、奇しくも平成25年8月6日に発表された社会保障制度改革国民会議報告書の中で示される、これからの日本で求められる“医療のあり方”と合致するものであり、また、現在、精力的に検討が進められている新・内科専門医、指導医の医師像である“医師としての倫理観と安全に関する知識を有し、内科全般にわたる標準的な知識と技能を修得した、チーム医療のマネージャーとして全人的な診療にあたる医師”“地域における内科系診療ネットワークのリーダー”が実践する医療のあり方と同様であると考えられるであろう。

本報告書は新・内科専門医が今後地域を視野に入れて構築すべきケア供給モデルについて大きな示唆を与えてくれると思われる。

Patient-Centered Medical Home : Suggestions for the Health Care Delivery System Reform in Japan ; Joint principles of the Patient-Centered Medical Home.

Yasushi Miyata¹⁾ and Kei Mukohara²⁾: ¹⁾Postgraduate Education Center/General Internal Medicine, National Hospital Organization Nagoya Medical Center, Japan and ²⁾Department of General Medicine, National Hospital Organization Nagasaki Medical Center, Japan.

はじめに

患者中心のメディカルホーム（Patient-Centered Medical Home：PCMH）は、小児から青年、成人までの患者に包括的なプライマリ・ケアを提供するためのアプローチであると同時に、個々の患者とのかかりつけ医、さらに適切と考えられる場合は患者の家族も含めた協力関係を促進するヘルスケアの場である。

AAP, AAFP, ACPおよびAOAは、約333,000人の医師を代表して、PCMHの特徴を説明するべく以下の共同原則（joint principles）を策定した。

原則

かかりつけ医（personal physician）：個々の患者は、患者への初期対応と継続的かつ包括的なケアの提供を担うための訓練を受けた1人のかかりつけ医と、継続的な関係を維持する。

医師が指揮する医療チーム（physician-directed medical practice）：かかりつけ医は、診療現場におけるチームを指揮し、そのチーム全体で患者に対する継続的なケアの責任を担う。

全人的志向（whole-person orientation）：かかりつけ医は、患者のヘルスケアニーズすべてに対応する、または、他の適任の医療専門職との間でケアの調整を適切に行う、という責任を担う。その対象は生涯のあらゆる段階での医療であり、急性期医療、慢性期医療、予防医療、終末期医療などが含まれる。

ケアのコーディネートと統合（coordination and integration of care）：複雑な医療システムのあらゆる要素（専門医療機関、病院、在宅医療機関、介護施設など）と患者のコミュニティ（家族、公的または民間の地域サービスなど）との間でケアをコーディネート・統合する。患者登録、情報技術、医療情報交換などの手段を用いてケアの実施を円滑化することにより、必要とされるケアが患者のニーズと希望に沿う時期と

場所で、かつ文化的および言語的に適切な形で提供されることを保証する。

質と安全（quality and safety）：質と安全はメディカルホームの大きな特徴である。

- メディカルホームは患者中心のアウトカムの達成を支援することで患者を擁護する。そのアウトカムは、医師・患者・家族の間の思いやりに満ちた確固たる協力関係に基づくケア計画プロセスによって定義される。

- エビデンスに基づく医療と意思決定支援ツールを臨床での意思決定の指針とする。

- メディカルホームの医師は診療行為の評価および改善に自発的に取り組むことで継続的な質改善プロセスに責任を持って関与する。

- 患者は意思決定に積極的に参加し、患者の期待が満たされているか確認するためのフィードバックが求められる。

- 情報技術の適切な利用により、最適なケア、診療行為の評価、患者教育、効果的なコミュニケーションを支援する。

- 医療機関は適切な非政府機関による自主的な認定プロセスを受け、メディカルホームモデルに合致した患者中心のサービスを提供する能力を保持していることを実証する。

- 患者と家族は診療における質改善活動に参加する。

ケアへのアクセスの向上（enhanced access）：ケアへのアクセスは、容易に閲覧が可能なスケジューリング管理、診療時間の延長制度、患者・かかりつけ医・医療機関スタッフ間の新しいコミュニケーション手段などのシステムによって向上させることが可能である。

支払い（payment）：支払いについては、かかりつけの患者中心のメディカルホームを持つ患者が享受する付加的な価値を正しく認識する。料金体系は以下の枠組みに基づいて決定すべきである。

- 対面受診以外の状況における医師および医師以外のスタッフが行う患者中心のケア管理業

務についても、その価値を反映させるべきである。

- 医療機関内でのケアコーディネート，およびコンサルタント医，補助的な医療提供者（ancillary provider），地域の医療資源の間でのケアコーディネートに関連したサービスに料金を支払うべきである。

- 質改善のための医療情報技術の採用および利用を支援すべきである。

- セキュリティ対策がなされた電子メールまたは電話でのコンサルテーションなど，強化された通信アクセスの提供を支援すべきである。

- 情報技術を利用した臨床データの遠隔モニタリングに伴う医師の業務に対して適切に評価すべきである。

- 対面受診については診察毎の独立した支払いを考慮すべきである（上述した対面受診以外での状況におけるケア管理サービスに対する支払いによって，対面受診での診療に対する支払いが減額されてはならない）。

- 医療機関が抱える患者集団における対面受診での症例構成の差を認識すべきである。

- 医師の指示に基づく外来でのケア管理による入院の減少による費用削減に伴う利益について，医師がその分配を受けることを認めるべき

である。

- 測定可能で継続的な質改善の達成に対する追加の支払いを考慮すべきである。

メディカルホームという概念の背景

メディカルホーム（medical home）という概念は，1967年にAmerican Academy of Pediatrics（AAP）によって導入され，当初は小児患者の診療記録を中央管理することを意味していた。2002年のAAPによる方針表明ではメディカルホームの概念が拡大され，容易にアクセス可能であること，継続的かつ包括的であること，家族も中心に置かれること，適切に調整されること，思いやりのあること，文化的に効果的なケアであること，という運用上の特徴が盛り込まれた。

American Academy of Family Physicians（AAFP）とAmerican College of Physicians（ACP）は，それ以降，患者のケアを改善するための独自のモデルを開発しており，それぞれ「medical home」（AAFP，2004年）および「advanced medical home」（ACP，2006年）と呼ばれている。

詳細情報：

American Academy of Family Physicians：

<http://www.aafp.org/practice-management/pcmh/overview.html>

American Academy of Pediatrics：

<http://www.pediatricmedhome.org/>

American College of Physicians：

http://www.acponline.org/running_practice/delivery_and_payment_models/pcmh/

American Osteopathic Association：

<http://www.osteopathic.org/inside-aoa/development/practice-mgt/Pages/patient-centered-medical-home.aspx>

（訳者注：原文に記されている学会の各リンク先は，2014年4月1日現在，開くことができなかったため，訳者が適切と考えた新しいリンク先に差し替えた）

監訳者のCOI（conflicts of interest）開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし